

平成29年度 自己点検・自己評価結果

目次

(1)	教育理念・目標.....	1
(2)	学校運営.....	2
(3)	教育活動	
	福祉心理学科.....	3
	介護福祉学科.....	5
	作業療法学科.....	7
	理学療法学科.....	9
	看護学科.....	11
	助産学科.....	13
	看護学科通信課程.....	15
	歯科衛生学科.....	17
(4)	学修成果	
	福祉心理学科.....	19
	介護福祉学科.....	20
	作業療法学科.....	21
	理学療法学科.....	22
	看護学科.....	23
	助産学科.....	24
	看護学科通信課程.....	25
	歯科衛生学科.....	26
(5)	学生支援.....	27
(6)	教育環境.....	29
(7)	学生の受入れ募集.....	30
(8)	財務.....	31
(9)	法令等の遵守.....	32
(10)	社会貢献・地域貢献.....	33

(1)教育理念・目標

Q	評価項目	評価
1	学校の理念、目的、育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
2	学校における職業教育の特色は何か	4
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4	各学科に教育、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者等に周知されているか	4
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】

1. 本校の基本理念は「豊かな人間性と創造力の育成」「先進的な知識と技術の修得」「開かれた学校」であり、社会の多様なニーズに対応できる人材の育成を目指している。
また、本校の目的は学校教育法に基づき「高度医療福祉社会を実現する為の担い手である社会福祉、介護福祉、リハビリテーション医療、看護、助産及び保健、福祉、医療のネットワーク化を実現するための医療福祉等の人材を育成」となっている。これを実現するための教育目標は、広い視野を持った人間性豊かな介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士等の福祉従事者や、理学療法士、作業療法士、看護師、助産師、歯科衛生士等の医療従事者を育成することである。
2. 職業教育にふさわしい高度な専門知識、技術教育は無論、社会人として求められる人間性の教育実践している。
(キャリア教育の実施、担任制によるきめ細やかな指導、各種行事、自治会行事)
3. 平成 29 年度には、看護学科通信課程(2 年制)第一回の卒業生を輩出している。また、平成 30 年 4 月より社会福祉学科通信課程を開設し、平成 31 年 4 月には歯科衛生士夜間部を、同年 10 月には精神保健福祉通信課程を開設予定である。
4. 本校の教育理念及び各学科の教育目標等は「学習の手引」に記載されている。さらに、学生には入学式前のオリエンテーション、保護者には入学式後に周知徹底している。また、外部の学校関係者にはホームページで公表するなど、あらゆる機会を通じて周知を図っている。
5. 教育目標、育成人材及びそれらを構成する知識、技術、人間性等は、毎年度初めに見直し、点検を行っている。また、職業実践専門課程の取り組みにおいて関連業界、職能団体等からの情報収集、また現場での実習等の機会を通じて、求められる人材要件を確認しつつ学科運営計画を作成している。

(2)学校運営

Q	評価項目	評価
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
5	教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】

- 1 学則に定めた学校の目的及びそれを達成するための教育目標に基づき、年度毎の重点項目を定めた「学校運営方針」を作成している。学科長はその学校運営方針に基づき「学科運営計画」を作成している。
- 2 年度毎に「事業計画」を作成し、年度初めの全体会議で提示している。学則に定めた学校の目的及びそれを達成するための教育目標に基づき、理事会の承認を得て年度毎に「事業計画」を策定している。
- 3 本校の組織運営、管理は、学校法人産業教育事業団の理事会、評議会のもと、専門学校においては、校長を責任者とし、学校運営会議を議決機関とし、意思決定を行っている。また、本校の校務分掌組織は明記されている。なお、限られた人員により運営しているため、各員に振り分けられる担当業務も多数となるため、各担当者のスキルアップ及び業務の合理化と平準化が検討課題である。
- 4 法人本部が所管しており、基準、手続き等を整備して適切に実施している。
- 5 意思決定のプロセスと仕組みは制度化しており、組織図・職務分掌によって業務範囲が示されている。
- 6 日頃より、本校教育に対する理解を進めるとともに、各行事を実施する際には近隣住民の承諾及び参加を求めている。
- 7 ホームページで公開している。

(3)教育活動 福祉心理学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が行われているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務、兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 福祉心理学科

1、2、3

社会福祉士・精神保健福祉士養成課程のカリキュラムは、厚生労働省で定められた基準に則り、各科目の学習目標を立て授業を実施している。また、それぞれの学習時間も法令に則り確保している。各学年に応じた各科目の到達目標を設定し、3年次は理論、演習と実習科目を中心にカリキュラムを設定し、4年次は国家資格受験対策に向けた編成とした。

4、5、6

実践的な職業教育の視点から、1・2年次は関連領域である福祉施設への見学会に参加している。3・4年次においては実習前、実習中、実習後それぞれ実習施設と連携を取り、演習や実習の授業に取り組んでいる。地域や実習関連施設などのボランティア活動も行っている。実習終了後は報告書をまとめ、学科内での実習報告会を開催しフィードバックを行っている。

7. FD 活動の一環として研究授業を実施し、校長をはじめ学科を越えた教員相互の授業参観を行い、総評及びフィードバックを行っている。
8. 学科にて教育課程編成委員会を開催し、現場の職員である外部委員を招き、本校における職業実践教育の取り組みについて、意見を聞く機会を設けている。教育現場と実践現場での意見交換の場となっている。
9. 前期・後期ともに定期試験後の成績認定会議を行い、学則による規定に則り単位認定、進級、卒業認定を行っている。
10. 国家資格取得のための授業を独自に設け、校内模試の充実を図り、資格取得に必要な知識を習得できるよう努めている。

11、12

法令で定められた教員要件に従い、教員を確保している。また、より専門的な分野については、その分野に精通した非常勤講師を確保し、目標達成に向けた授業を行っている。

13、14

日本ソーシャルワーク教育学校連盟事務局、社会福祉士会等、職能団体主催の研修に教員が参加している。また、自治医科大学、シルバー大学等へ講師として派遣し、各教員の自己研鑽に努めている。実習先等での行事に職員を派遣し、研修を実施している。

(3)教育活動 介護福祉学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が行われているか	3
6	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務、兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 介護福祉学科

- 平成 23 年の社会福祉士及び介護福祉士法改正による介護福祉士養成課程のカリキュラム変更に伴い、平成 27 年度より医療的ケアの授業が加わった。本学科も厚生労働省で定められた基準に則り、カリキュラム変更を行い授業実施している。また、養成校卒業生の国家試験導入に伴い、国家試験対策の授業もカリキュラムに加えている。
- 厚生労働省で示された「求められる介護福祉士像」、「資格取得時の到達目標」を意識し、各科目の学習目標を立てている。また、法令に則った学習時間を確保している。
- 各学年を前期・後期に分け、各科目の到達目標や実習と関連させながらカリキュラム編成をしている。
- 施設実習での職業教育の視点に立ち、演習や介護技術の授業に取り組んでいる。実習施設の精査や見直しも行い、学生が実習において学習成果を出せるよう心掛けている。

5. 学生の多様化に伴い、実習前に実習施設と連絡を取り、個別に打ち合わせを行っている。それにより、学生個々の特性を活かせるような実習内容になるよう努めているが、実習前の説明だけでは学生の特性を把握していただくことが難しいこともある。そのような施設には、改めて現在の学生像や実習到達の目標を伝え、理解を求める必要がある。
6. 実習期間を1年次前・後期、2年次前・後期の4期に分け、学習進捗に合わせた段階的な実習を行っている
7. 教員相互の授業参観を実施し、フィードバックを行っている。また、他学科の教員と互いに研究授業に参加しあい、相互に評価を行っている。
8. 年2回教育課程編成委員会を開催し、外部委員からの意見を聞く機会を設けている。
9. 前期・後期共に成績認定会議を行い、学則内の規定に則り単位認定を行っている。
10. 資格取得のための授業を独自に設け、必要な知識を習得できるよう努めている。しかし、学生の到達レベルには大きな差があり、通常授業だけでは成績の差が開いてしまうので、成績が一定レベルに到達しない学生に対し、空き時間や長期休暇期間を利用して補講を行っている。
11. 厚生労働省で定められた教員要件に従い、教員を確保している。
12. より専門的な分野については、その分野に精通した非常勤講師を確保し、目標到達に向けた授業を行っている。
13. 介護福祉士養成施設協会や介護福祉士会等、職能団体主催の研修に参加し、各教員の自己研鑽に努めている。また、実習巡回の際、実習先での独自の取組について学習している。
14. 学会への入会、出席等を通して職員の能力向上に努めている。

(3)教育活動 作業療法学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が行われているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	3
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務、兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 作業療法学科

1、2

作業療法学科は、学校の理念に基づき教育課程をデザインしている。また、厚生労働省の認可を受け、その基準を遵守している。同時に、「職業実践専門課程(文部科学省)」の認定、「WFO T(世界作業療法士連盟)認定校」「一般社団法人リハビリテーション教育評価機構認定校」の厳格な第三者評価を各々受け、教育課程の編成とその実施方針の策定(学科運営方針ならびに学科アクションプラン等々)に継続して活かした。

3. カリキュラムは、項目1・2の認可・認定基準を満たしたものとなっている。また、カリキュラムの見直しは、教育課程編成委員会等のフィードバックを受け、定期的にその中味の見直しを図った。特に、専門領域・分野を同じくする教員間の連携をより密にし、体系的な授業を展開する工夫を行った。

4. 教育課程編成委員会等を活かしながら、保健医療福祉と作業療法士を巡る動向を適宜把握し、学生

のキャリア形成の育みを支持するために、授業内容を検討する学科会議を定期的に継続開催した。そうした委員会や会議での意見交換等を踏まえ、各授業開始時、丁寧なオリエンテーションを実施し、①シラバス②位置付け③目的④到達目標⑤成績評価の方法と項目⑥授業計画等について説明を行った。また、職業教育を最重視する観点から、学内外の演習・実習の時間数を可能な限り確保し実施した。その中で、学生一人ひとりのキャリア形成の育みに、よりオーダーメイド式のサポートが必要であることが明確となった。今後の検討課題である。

5. カリキュラムの内容については関連分野業界である病院・施設の作業療法士等ならびに非常勤講師等からの様々なフィードバックを学科会議・教育課程編成委員会等で検討し反映させた。また、臨床研修でブラッシュアップを続ける学科教員一人ひとりが、臨床での現在の問題と課題や将来のあべき方向性を学び続け、カリキュラムとその内容に適時活かした。
6. 関連法令ならびに第三者評価の基準を遵守し、定期的に臨床実習指導者会議や実習地訪問等を設定する中で、専門的な産学連携の実践教育を継続して行った。その中で、学生一人ひとりのストレスを見出し育みそれを個々の学生自身が表現出来るようになるためには、よりオーダーメイド式のサポートの中で継続してフォローすることの必要性が明確となった。今後の検討課題である。
7. 授業アンケートによる教員へのフィードバックを、開講する全ての授業科目で行った。また、受講学生と担当教員の協働の場である授業の質を上げることを目的とし、公開研究授業（FD 委員会を通じての相互研鑽）等を定期的実施し教員間の相互フィードバックの機会を継続して設けた。
8. 学校関係者評価委員会で、卒業生ならびに関連分野業界である病院・施設など外部関係者から評価を受け、その結果を積極的に学科運営と職業教育実践に継続して取り入れた。
9. 成績評価ならびに単位認定は、「学則」と「細則」に従い厳正かつ慎重に行った。
10. 資格取得は、学生個々の特長を基礎に、受験対策授業や模擬試験等を計画的に実施した。また、学科卒業生から、フィードバックを受ける特別授業を組み入れた。
11. 「学生一人ひとりのキャリア・デザイン力とキャリア形成の育み」を実現出来る授業展開や学生の個別支援力を学科教員の明確な成長テーマとし引き続き求めた。そのため、学科教員には、「臨床力」「教育力」「地域貢献力」をその実現のための共有スローガンとし、各々プロフェッショナルとしての徹底した自己研鑽（臨床・社会活動での臨床力の研鑽。そして、WFOT の新教育水準をクリアすべく修士号、博士号、認定作業療法士、ソーシャルワーク資格等の取得。他、臨床研修と学会での発表、研修会参加等）を積み続けた。学科の最たる特長であり更なるテーマでもある。
12. 保健医療福祉と作業療法士ならびに関連専門職の動向を適宜把握しながら、項目 11 の自己研鑽内容のマネジメント(定期的な学科会議ならびに FD 委員会を通しての諸研鑽等)に継続して努めた。
13. 項目 11・12 を積極的に進める中で、教員の資質向上に継続して努めた。
14. 項目 11・12・13 を積極的に進める中で、教員の能力開発に努めた。今後、各教員のストレスをより活かし、学科力の底上げをさらに図ることが継続課題である。

(3)教育活動 理学療法学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が行われているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務、兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 理学療法学科

1、2

教育理念に沿った教育課程の編成がなされており、修業年限に応じた到達レベルや時間の確保はできている。

3. 必要な技能を習得する為の適正な時間数を定めている。
4. 他の養成校より実践的な教育を目指しており、学外実習の時間数も十分である。
5. 関係施設等や業界団体等との連携により、定期的に教育課程編成委員会を開催している。
6. 1年次、3年次、4年次と各学年に応じた実践的な職業教育を行うことができている。
7. 年に数回、校長や他の教員による授業評価が行われている。また学生による授業アンケートが実施され、教員にフィードバックされている。
8. 各実習施設に必ず足を運び、様々な意見を聴取している。また外部団体である一般社団法人リハビリテーション教育評価機構の評価認定を受けている。
9. 成績評価、単位認定、進級・卒業認定の基準は明確になっている。
10. 4年次後期に、資格取得のための国家試験対策が理学療法総論という科目としてカリキュラムに位置づけられている。
11. 臨床経験並びに人生経験豊富な教員が確保されている。
12. 現在、認定における教員数は足りているが、今後につながる教員確保のマネジメントを少しずつ行う必要がある。
13. 一部学内における指導力育成や学外での知識習得の研修は行われている。先端的な知識、技能等を修得するための研修にも参加をしているが、まだ十分とは言えない。
14. 職員の能力開発のための研修が、具体的に何を意味するかの解釈が難しい。専門性のことであるならば、関係団体等の研修や講習会等への参加はあり、適切と考える。しかし、まだ十分とは言えないためほぼ適切とした。更なる研鑽が必要。

(3)教育活動 看護学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が行われているか	3
6	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	3
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務、兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 看護学科

1. 教育課程は、理念及び指定規則に則り指導要領に沿って定めている。
2. 学則、指定規則に則り、学習時間を確保し正当な教育活動を実施している。
3. 段階的に学習が進められるようカリキュラムを組んでいる。
4. 講義、演習、実習の効果を踏まえ教育活動している。しかし、多様な学生に効果的な教育を行うためには、更に教育内容及び方法論に関しての改善が課題である。特に平成 30 年度は基礎看護学実習及び成人看護学実習の要項を検討する予定。
5. 実習施設と定期的に会議を開き、連携している。実習場所が多施設にわたるため、学びに差が出ないように、教員の指導力の向上と共に、更に施設との調整が必要である。また、教育課程編成委員会での意見をカリキュラムに反映できるよう努めている。
6. 関連施設における実習は、年間を通して各学年で体系的に実施されている。
7. 授業評価は学生アンケートを終講試験前に実施している。それらを踏まえ教員個々が授業を振り返ることを意識している。今後は学科全体で学生からの意見を授業にどのように反映させるか会議等で検討する必要がある。
8. 実習指導者会議等で意見を頂く機会は多く、その都度学科で検討し対策を立てている。しかし、評価を受ける機会はあまりない。具体的な評価が得られるように体制を整えたい。
9. 成績評価の基準は明確であり、学則・細則に則り遵守している。
10. 国家資格取得のため効果的な学習が進められるよう努めている。
11. 専任教員は 12 名（内 1 名は平成 29 年度時点で休職中であつたが現在は復帰している）。実習指導教員が 5 名で教育体制を整えている。
12. 専任教員及び実習指導員の教育経験年数にばらつきはあるが、連携しながらそれぞれの専門分野を担当している。今後も教育の質を保証するために優れた教員の確保に努めたい。
13. 教員間で話し合い、教育内容、方法論に関しては協議を重ねている。また、研究授業を通して互いに学ぶ機会を得ている。今後も継続し教育の質が向上するよう努めていきたい。
14. 1 回/年、学科内研修を実施している。また、外部の研修会等で学習する機会を得られている。今後も学内、学外の研修に参加し教員の能力を高めていきたい。

(3)教育活動 助産学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が行われているか	—
6	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	3
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	—
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	3
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務、兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	2
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 助産学科

1、2、3

教育課程は指定規則を遵守し、指導要領に沿って策定している。

助産師国家資格取得に向け、学生の成長について教員間で一貫した考えを持ち、学習の順序性や到達レベルについて確認をしながら教育活動にあたっている

4. 効果的な教育・指導を行うために教員間の情報共有を心掛けている。また、適切な時期に学んだ知識・技術を統合するために、シミュレーション教育を 29 年度は 2 回実施した。より実践場面に近い学びができるよう工夫している。
6. 学内での講義・演習が臨地実習に活用しやすいよう、教材、配列を工夫している。
技術教育に関しては受け取る対象者の権利を擁護するために、段階的に確実に身につけられるよう取り組んでいる。
7. 一部科目で学生からの授業評価を実施しており、結果に基づき授業の改善を心がけている。
9. 助産診断・技術学実習は 405 時間と長期に及ぶため、形成評価を取り入れているが、実習震度が学生によって異なることから適時の評価が困難な場合があり、再検討が必要である。
10. 国家資格取得のために段階的な年間計画を立てて実施している。入学直後から学生の能力把握と、学習方法の相談、モチベーション管理などに努めている。
11. 常勤・非常勤職員を含め第一線で活躍する人材を講師として確保できるよう努めている。教員間の関係を良好に保ち、離職しないような組織づくりを心掛けている。
12. 周辺の業界の情報収集や人脈の拡大に努めている。しかし数年後を見据えた長期的なマネジメント計画はできていない。
13. 職能団体の実施する学会・研修に参加し、最新の知見に触れる機会を作っている。
修士課程、教員養成課程に在籍し、自己研鑽に努めている。
14. 外部の研修に参加した際はその学びを学科全体で共有し実践に活かせるよう努めている。

(3)教育活動 看護学科通信課程

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	2
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が行われているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	2
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	2
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務、兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	2
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	2

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 看護学科通信課程

1. 教育理念に基づき、また指定規則を遵守した教育課程を編成し、それに従った実施方針を定めている。
2. 修業年限は2年であるが、通信教育という形態上家庭での学習時間が取れているかどうかの判断はできない。提出物の遅延が目立つ学生もいるが、1～2割程度である。ほとんどの学生は、期日までに提出物が郵送されているので、内容的には実施可能なボリュームであると考えている。しかし、提出物の内容を考えると、こちらで求めている内容には届かない者も3割以上いる。日ごろ学習から遠ざかっていた学生がほとんどのため、教育達成レベルを上げるためにも入学初期から本を読む、文章を書く、根拠を考えるなど学習の基礎になることをその都度指導していく。
3. カリキュラムは体系的に編成できている。指定規則に提示されている内容は網羅した上で、本校では、基礎看護学Ⅳの看護過程でスクーリングを3日間実施し、成人看護学と老年看護学では放送大学の科目を使用せずに学科独自の内容で行うことで、本校の体系に基づいた看護の基礎学力の定着

を図っている。今後は、各看護学の教育内容を吟味して、より学生の知識が定着する内容にしていく。

4. 本学科は就業中の准看護師が看護師の国家資格を取得するために学習している学科である。そのため、技術面という意味の実践的な部分は既に習得し、活用して仕事に関わっている。したがって、学習のコアは「科学的思考」と「根拠」であり、実践的というのは看護課程の展開の部分あると考えられ、開設当初からは毎年教員全体で話し合いながら修正を加えている。
5. 実習先の意向や指導体制を考慮して、相談しながら時期や人数、指導方法や内容を修正している。実習終了後には意見をいただき、次年度に向けて修正している。今後もこの方法をとっていく。
6. 各領域において2日間の見学実習を実施している。
7. 2年間、学生からは実習に関するアンケートを取ることができている。しかし、授業に関しては完結が学生から提出されたレポートであることや、スクーリングを行う部分が科目によって違うこと、そもそも全ての科目でスクーリングを行うわけではないこと、日程が限られていて、時間を捻出するのが難しいこと等、様々な理由からアンケートを取る機会が作れていない。今後は、スクーリングの内容等を検討して、学生からの評価を受けられるようにしていく。
8. (外部関係者ではないかもしれないが) 添削教員会議を年1回実施しており、その際に事例展開の方法等についての意見をいただいている。また、実習の打ち合わせに行ったときに、前回の実習についての講評をお聞きして、次の要項に組み入れている。また、学生からの意見も伝えるようにしている。今後もこれを継続して実施していく。
9. 基準は学則にて明らかになっており、学習の手引きや実習の手引きにも詳しく掲載している。また学生には随時説明している。
10. 地域ゼミで国家試験対策を実施している。また、カリキュラムの中では国家試験に対応できる内容を含んでいる。
11. 教員の数も増え、専門的に指導できる教員の体制が整えられつつある。しかし業務内容や業務分担、方法等はまだ整備途中である。
12. 教員は各実習施設等でパイプを形成、様々な情報を収集し、現在の看護の知識や方向性を聴取している。また、各県の看護協会主催の学習会での講義や、本学科の学生への講演をしていただくなど、連携を図っている。今以上に連携を図り、最先端の情報を収集して学生に還元できるようにする。
- 13、14
他の通信制の学校で研修をする、通信制の教員協議会で情報交換を行う等学科単位での研修の機会はあるが、個々の教員が学会や勉強会に参加するという機会は持っていない。そもそも現時点では教員が教材研究する時間や自己研鑽しようという意欲を持つ時間的・精神的ゆとりが作れていない状態にある。これは項目11でも述べたように業務のマニュアルが未完成であることが大きな原因の一つである。今後は業務整理やマニュアルの作成を早期完了させ、教員が自己研鑽のために使える時間を確保できるようにする。

(3)教育活動 歯科衛生学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が行われているか	3
6	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	3
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務、兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 歯科衛生学科

1. 学校の教育理念に基づき教育課程を編成している。これは歯科衛生士養成所学校指定規則に従っているものであり、厚生労働省の認可を受けそれを遵守している。
2. 3年間で就業する学科である。1年次から3年次まで修得する科目及び到達目標を明らかにし、編成している。今後も外部との連携を密に実践的職業教育をしていく
3. カリキュラムは教育理念・教育目的・教育目標を受けて編成しており、卒業時目指すべき学生像、職業実践者をイメージさせている。今後は単位数を見直し、指定規則通りに準じたカリキュラムを編成していく。
4. キャリア教育3コマ6時間をカリキュラムに反映させ、職業実践的カリキュラムとしている。演習・実習・学外学習を行っている。またそれらはシラバスで学生に配布提示している。
5. カリキュラム等は教育編成委員会で開示し、評価を受け検討している。
6. 臨地臨床実習は診療所、福祉施設、大学病院、小学校、保育園、中学校と幅広い施設で行っている。実習先では知識・技術・態度を身に付けている。教員も巡回指導を行い、実習指導者と意見交換等を行いながら連携している。
7. 学生による授業評価は「授業アンケート」を全教科行っている。授業運営については、教員同士の授業参観、評価を行い発展させている。
8. 教育編成委員会（卒業生や関連分野の委員が参加）にて情報を公開し、さまざまな視点で評価され改善をしている。
9. 成績評価・単位認定・進級・卒業判定の基準に関しては、学則にて明確に提示し、随時説明も行っている。学則施行細則に沿って評価した資料を基に会議を開催し、学校長の認定を受けている。
10. 資格取得のために補講・模擬試験・その他の対策を行っている。国家試験を受験した3年生全員の合格を目標としている。
11. 教員については、指定規則の教員資格に適合した人材を確保し、育成に努めている。また非常勤講師についても実践の場で活躍している人材を確保している。
12. 教員確保については常に広く情報収集している。
13. 資質向上のため、学内公開授業を実施している。
14. 関係団体・機関の開催する研修や講習会などに参加している。

(4)学修成果 福祉心理学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	4
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 福祉心理学科

1. 教務と就職課が連携を取りながら学生の希望や特性による個別指導を行い、就職率は100%を達成した。
2. 社会福祉士・精神保健福祉士共に4年制専門学校の中では全国一位の合格率を達成し、高い合格率を保つことができた。学生に合わせた個別の指導等きめ細かい指導を実施できたと言える。
3. 担任による前期・後期の定期的な個人面談の実施や、遅刻欠席が多い学生に対しフォローを行ない、退学を防ぐよう努力している。例年、精神面において不安を抱えている学生がいるので、特にきめ細かく指導を行っている。
- 4、5
卒業後も、就職施設や卒業生と連絡を取り、卒業後の動向を把握している。卒業後の悩みや国家試験へのアドバイス、キャリアアップに対して個別的に相談を受けている。また、平成30年度より同窓会と連携し、卒後教育の充実に向け取り組みを始めたところである。

(4)学修成果 介護福祉学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 介護福祉学科

1. 教務と就職課が連携を取り、学生の希望や特性による個別指導を行い、学生の希望に沿った就職を実現している。
2. 国家試験は卒業生全員が受験し、養成校平均を上回る合格率だったが、17名中2名が不合格となり、全員合格までは到達しなかった。
3. 担任による個人面談、学生の欠席に対する確認やフォローを行うなど退学を防ぐよう努力しているが、2年次で1名、モチベーションの低下により退学者が出た。
4. 実習施設に就職した卒業生の動向については把握しているが、学科で関わりのない施設や他分野における卒業生の動向については把握できていない。
5. 現在の介護を取り巻く状況や施設の動向を調査し、卒業後にも役立つような情報を交えながら授業を展開している。

(4)学修成果 作業療法学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	2
3	退学率の低減が図られているか	4
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 作業療法学科

1. 就職に向けた相談・支援・指導は、学生個々のストレングスを活かすことを軸に、学生本人・学生部・就職課・学科教員との連携の中で目標の達成を図った。
2. 作業療法士国家資格取得率向上に向け、1年次から4年次まで個別ならびにグループ等を活用しての補習授業を実施した。また、毎年の国家試験問題を分析し出題科目毎の学習課題を明確にした上で国家試験対策を行った。しかし、今年度、合格率全国平均を超えることは出来なかった。その中で、国家試験対策科目の定期試験の在り方について今後の明確な検討課題となった。
3. 主担・副担の2教員による学年担当制ならびにキャリア・デザイン担当教員を配する中で、学生一人ひとりのキャリア・デザイン力とキャリア形成の育みを支援した。特に、定期的な個別面談等の中で、学生個々の課題とストレングスを明確にすることに重点を置いた。そうした取り組みの中で、引き続き、低い退学率を実現した。
4. 作業療法学科独自の卒業生の勉強会が引き続き自主的に活動を継続した。勉強会は、卒業生のネットワーク（社会的活躍の把握等々）としても機能し、引き続き学科の大きな特長となった。
5. 項目4の活動から得られるフィードバック内容を、学科教育活動の改善に活用した。この活用のさらなる体系化（協働しての地域社会への情報発信等）は今後の継続課題である。

(4)学修成果 理学療法学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	2
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 理学療法学科

1. 十分な就職率が確保されている。
2. 結果として、平成29年度は平成28年度に比べ資格取得率が低下しており、やや不適切とした。学生への関わりの時間を各教員が増やすことで改善を図りたい。
3. 7.5%（平成28年度）から6.1%（平成29年度）に改善されており、退学率の低減に対する様々な対策が功を奏してきた。継続して実施することで更なる値の低下を図る。
4. 様々なネットワークにより情報が入ってくるため把握可能。
5. 就職先が実習先であることが多く、その把握はある程度可能である。しかしその結果を教育活動の改善に上手く活用できているかは疑問である。

(4)学修成果 看護学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 看護学科

1. 学生の希望通りの就職が出来ている。
2. 国家試験の合格率は全国平均には及ばず、91.9%であった。しかし、昨年度に比べると合格率は向上している。本年度、効果的であった部分をより強化し、全国平均まで向上するよう努めていきたい。
3. 本年度の退学率は6.7%であった。退学の理由は、進路変更が最も多く次いで学業についていけないというものであった。本年度よりクラス別担任制を導入し、より個別に学生対応が出来るよう努める。また、学習サポートセンターと連携し基礎学力の向上に努めていきたい。
4. 在校生は、年間1～2回程度地域のボランティアに参加している。卒業生に関しては実習病院に就職した場合、評価を知る機会がある。しかし、全体的には情報は少なく課題がある。本年度は学習サポートセンターと連携し卒業生の現状を把握したいと考えている。
5. 卒業後の情報が収集できていないため、評価までに至っていない。

(4)学修成果 助産学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	2
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 助産学科

1. 学生の希望を把握しながら、学生部就職課と連携して目標を達成している。
2. 学生個々の理解力を把握し、国家試験の直前まで必要に応じて個別の支援を実施した。学生を孤立させず、学生同士の助け合いのサイクルも重視したことで全国平均を上回る資格取得率を維持している。既卒者の合格も達成した。
3. 29年度は2名の退学者を出した。1名は健康上の理由であり、やむを得ないが、1名に関しては学習上の躓きが結果的に学習継続を困難にしたことは重く受け止めている。今後は形成評価の内容・精度を見直し、途中段階で適切な支援を行うことを目指す具体的な方策を考えている。
4. 開設以来3期の卒業生を送り出した。3年間に退職・再就職した卒業生もおり、離職傾向やキャリアアップに関して今後は積極的にデータ収集を行う必要を感じている。
5. 入職後の卒業生の動向を就職先に確認し、学修成果を評価する体制づくりが必要だが、実施には至っていない

(4)学修成果 看護学科通信課程

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	2
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	—
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	—

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 看護学科通信課程

- ほとんどの学生が、施設より推薦を受けて入学しており、卒業後は就学中に就業していた施設に戻っている。就学中に定年を迎えたものは、引き続き学習していく意欲を見せている。また、国家試験受験対策のため一度退職した学生も、元の職場や新しい職場に就いている。
この状況を継続するためには、願書提出時に施設からの推薦を受けてきていただくのが一番である。入学説明会では、施設の推薦を受けるよう推奨していく。
- 今年初めての国家試験受験となった。全国平均 81.6%のところ当課程は 81.3%であった。通信制看護学校の合格率は例年 75～78%と言われているので、今後は 80%台をキープし、安定した合格率を保っていくことを目標とする。そのためには、少人数制の指導、電子媒体を活用しての細かい学習状況のチェックに合わせたできるだけタイムラグのない対応をしていく。
- 経済状況による学業継続困難者には、学校側と相談して個人に合わせた対応を検討していく。学業に行き詰まりを感じている学生とは、時間を設けてスクーリング先や学内で面談を実施している。場合によっては、就業先の上司と相談していくという方法を取り、退学率を下げしていく。また、身体的な問題に対しては、早期に対処するよう指導して、個人の状況に合わせて学習を継続できるようにする。

(4)学修成果 歯科衛生学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	4
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】 歯科衛生学科

1. 就職に向けた相談、支援及び指導は、本人・担任・学習サポートセンターが一体になって目標達成している。
2. 資格取得、合格率の向上を目指している。合格率が全国平均に満たない場合、その原因等アセスメントしている。
3. 担任、担当教員と連絡を密にして学生の状況把握に努めている。問題がある学生に対しては、全教員と情報共有し、退学・休学・留年の防止に努めている。
家庭環境・学習環境・人間関係等問題を抱えて入学してくる学生が多く、面談による対応をしている。
4. 相談に来校した卒業生に対し支援している。
5. 就職先が実習先の場合は把握している。また、卒業生が指導員の場合はご意見を伺い、教育活動に活用している。

(5)学生支援

Q	評価項目	評価
1	進路、就職に関する支援体制は整備されているか	4
2	学生相談に関する体制は整備されているか	3
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
7	保護者と適切に連携しているか	4
8	卒業生への支援体制はあるか	4
9	社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
10	高校、高等専修学校等との連携によるキャリア教育、職業教育の取組が行われているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】

1. 就職支援の専門部署として、学生部就職課を配置している。担任と連携し、応募文書の書き方指導や模擬面接といったきめ細かい指導と求人情報の開示等の充実した就職情報によって、学生は納得して受験する就職先を決めている。
2. 学生の相談については、原則担任または学生相談室専任の相談員が対応している。また、必要に応じて学生の状況を保護者に連絡し、家庭と協力した相談、援助を行っているが、様々な理由で保護者の協力を得ることが難しい環境も年々増えている。
3. 日本学生支援機構の奨学金や国の教育ローン、県の就学資金制度等の公的機関の奨学金制度、病院の奨学金制度の紹介・案内及び取次事務を積極的に進めている。また、学費に関しては分納・延納制度や、進級・卒業できない場合の学費減免制度を通して支援を行い、柔軟に対応している。
4. 年1回の健康診断を実施している他、各号館の窓口に常備薬を置き、保健室を設けている。また、AEDの設置も行っている。
5. 学生の自治会活動及びボランティア活動に対して活動費の補助等支援を行っている。
6. アパート、駐車場の紹介を行っている。

7. 無断欠席が続くなど、対応が必要な学生がいる場合、適宜保護者に連絡をする等の連携を取っている。特に最近では心理的な問題を抱えている学生も多く、三者面談などを行う場合もある。また、後援会（保護者会）との連携にも力を入れている。
8. 卒業後、いつでも就業上の悩みや離職・再就職の相談などに応じるといった支援を行っている。また、国家試験に合格することができなかつた学生に対しては、対策講座の聴講や図書館の開放等の体制を取っている。
9. 教育上必要なものに十分対応できるような施設・設備が備えられている。また、各設備や機器の劣化対応は速やかに行っている。しかし、現場で使用しているものと同じ機材や最新の機器等への入れ替えは十分とは言えない。
10. 高校からの依頼で模擬授業や進学ガイダンスを積極的に引き受けている。また、栃木県専修学校各種学校連合会主催の進路連絡協議会や全体研修会等に参加し、高校の教員と情報を共有するなどの連携を取っている。

(6)教育環境

Q	評価項目	評価
1	施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
3	防災に対する体制は整備されているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】

1. 施設・設備は、現行の教育に対応できるものであり、専門教育に必要な設備・機器は、劣化への対応はもちろんのこと、社会ニーズや教育内容、教育方法の変化、発展に合わせて更新、改善できるように管理している。
学習方法、指導方法の多様化が進んでいることから、特に視聴覚、IT 関連の設備・機器については、年間の使用計画と予算に基づいて、毎年、定期的に可能な限り最新のものに更新している。
また、平成 27 年度に新設したマロニエ医療福祉専門学校の図書館については、平成 29 年度よりメディカルオンライン(医学文献検索サイト)の利用を開始し、学習環境の更なる向上を図っている。
2. 実習先は、法令の要件を満たし、学科の教育目標を達成するために適した所を第一に考慮し、学生の学習の場として相応しいかどうかを十分に検討して選定し、依頼している。
実習中は、専任教員と実習指導担当教員を実習先に配置し、また、定期的に訪問し、学生の状況を把握すると共に実習指導者とのコミュニケーションを図り、連携して学生指導を行っている。
3. 防災訓練は、法令及び消防計画に基づき毎年 1 回実施し、消火器・非常ベル等の消防設備については、法令に基づき年に 2 回の点検を実施している。
また、平成 29 年 10 月より、ミサイル発射に関する J アラート時の対応ルールも整備している。

(7)学生の受入れ募集

Q	評価項目	評価
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
3	学納金は妥当なものとなっているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】

1. 18歳人口の減少、大学全入時代等の状況下で高校生においては学生募集が厳しく、定員の充足が難しくなっているが、栃木県専修学校各種学校連合会のルールに基づき志願者の立場で適切、適正な情報の提供を行っている。学校案内、各種リーフレット、ホームページ等での情報提供については、入学志願者にわかりやすく且つ興味を持って見てもらう必要があり、様々な観点から適切性について常に点検している。進学情報誌、新聞、テレビ、その他媒体等については高校生、社会人の立場を踏まえ、的確に選定し募集広告を行っている。通信制課程の募集も同様に行い、幅広い年齢層の社会人に対して一様に丁寧、適切な対応を行っている。
2. 学校案内及びホームページ等の記載にあたっては、真実を明瞭、公正に記載している。教育成果についても真実を正確に伝えている。また、オープンキャンパス、高等学校内ガイダンス、入学説明会での募集活動においても、カリキュラム、就職状況等、正確に情報提供を行っている。
3. 全日課程、通信制課程各学科の学納金は社会情勢や他校の状況等を踏まえて毎年検討を重ねており、妥当なものであると考えている。

(8)財務

Q	評価項目	評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2	予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】

1. 学校運営にとって、財政基盤の安定確保は最重要課題であり、18歳人口の減少や大学全入時代のなか、学生確保は厳しく、法人全体としても厳しい予算編成を強いられているが、一定数の入学者を確保し続けるとともに、退学・除籍などのドロップアウト対策を強化して改善を図り、一定水準の学納金収入を確保できるよう努力していく。
2. 予算は計画に従って妥当に執行されている。
3. 会計監査については、法人本部の所管で外部監査・内部監査を適切なスケジュールで実施しており指摘事項があった場合は適切に是正措置を講じている。
4. 財務情報はホームページにて公開している。

(9)法令等の遵守

Q	評価項目	評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4	自己評価結果を公開しているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】

1. 専修学校設置基準及び専修学校の教育に関わる各種の法令を遵守している。また、法令等の指定学科にあっては、その基準及び取得可能な資格に関する諸法令を遵守し適正な運営をしている。
2. 個人情報については「個人情報保護基本方針」・「個人情報の保護に関する規則」を定め、対策を取っている。
3. 毎年新年度初めに昨年度の自己評価を学科・部署ごとに行い、現状や取り組むべき課題等を報告書としてまとめた上で、その年の重点課題・運営方針と併せて教育活動や学校運営の改善に取り組んでいる。
4. ホームページの「情報公開」にて公開している。

(10)社会貢献・地域貢献

Q	評価項目	評価
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか	4
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
3	地域に対する公開講座、教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

【評価項目に対する状況と課題、対策】

1. シルバー大学校や市町村の生涯学習教育、公民館カレッジへ講師を派遣するなど、人的資源での貢献をするとともに、図書館を地域に開放するなどして物的資源の面でも貢献している。また、学生の定期的な地域清掃活動や職業教育活動に学校施設を利用提供、地域行事へテントやプロジェクター等の学校物品を貸与するなどして積極的に社会貢献・地域貢献している。
2. 定期的な交通安全の街頭指導をはじめ、学内での献血や、震災地への義援金活動、地域協働祭り及び在宅ケアネット栃木へ参加など多くのボランティア活動を奨励、支援をしている。また、福祉系学科においては授業の一環として実習先からの依頼を始めとしたボランティア活動を積極的に推進、支援している。
3. 介護委託訓練生の受入れや、一般教育訓練・専門実践教育訓練の指定認定を受けるなど積極的に実施している。